



支部便り

編集・発行 公益財団法人 AFS 日本協会岩手支部
 支 部 長 瀧 本 忍
 事務局 〒028-3452
 岩手県紫波郡紫波町片寄字四ツ屋300
 TEL/FAX 019-673-6607
 メール：info-iwate@afs.or.jp
 http://www2.afs.or.jp/tohoku/morioka/
 印 刷 (有)九戸印刷 (久慈市)

AFS いわて

高校留学生を岩手に

公益財団法人 AFS 日本協会岩手支部長 瀧 本 忍

支部便りをご覧の皆様こんにちは。AFS 岩手支部長2年目になりました瀧本忍です。皆様のご理解とご支援、ご協力のおかげで、今年度は2名の留学生を受け入れることができました。そして、6名の派遣生が岩手から世界各国へ飛び立ちます。また、この春、岩手支部のホームページがリニューアルされました。支部便りと合わせてそちらの方もご覧ください。

さて、岩手支部では現在、平成30年度の年間、半年、短期のホストファミリーを募集しています。今年度は、盛岡第一高等学校と一関第一高等学校にホストスクールとして留学生を受け入れていただいております。心より感謝申し上げます。

2019年にはラグビーW杯が釜石で、2020年には東京オリンピック・パラリンピックをひかえ、更にはアニメ文化も手伝って、日本の文化を学びたい海外の高校生が増えています。日本人にとっては、とても誇らしく嬉しいことなのですが、日本ではホストファミリーの希望者が少ないことから、海外の多くの高校生を受け入れる

ことができないのが現状です。特に岩手県は少なく、高校生が学校で海外の同年代の子と接する機会に恵まれていません。

異文化交流とは、異なる文化を受け入れ、認め合い、尊敬し合い共生することだと思います。私たちは、日常でも他人を受け入れ、認め合い、尊敬しあいながら折り合いをつけて生活していく必要があります。ホストファミリー、ホストスクールという身近な国際交流でそのような人間関係の資質を高めていくことは、言葉や文化の枠を超えた地球規模の国際平和貢献でもあり、自分の器を大きくすることにつながる、とても貴重な経験と言えるでしょう。

どうぞ、岩手の皆さん、岩手の国際化にご尽力いただけませんか？岩手の偉大なる先人に、「武士道」で有名な新渡戸稲造さんがいらっしゃいます。「我、太平洋の架け橋とならん。」とおっしゃった方の土壌岩手には、もっともっと国際的なDNAが潜んでいるに、違いありません。

【AFS 岩手支部 - #AFSeffect で繋がろう】 <http://www3.afs.or.jp/tohoku/iwate/>

第64期年間派遣生紹介 (2017年出発)

- | | | | |
|------------|--------------------|----------|--------------------|
| 冬出発・スイス派遣 | 佐藤 辰哉君 (一関第一高) | | |
| 夏出発・アメリカ派遣 | 諏訪 貴代さん (盛岡白百合学園高) | イタリア派遣 | 松田 凜花さん (盛岡第一高) |
| デンマーク派遣 | 谷川 晴宣君 (三本木高) | フィンランド派遣 | 小川 志織さん (盛岡白百合学園高) |
| ベルギー仏語圏派遣 | 阪本祐理子さん (盛岡白百合学園高) | | |

只今留学中

新しい視点

63期スウェーデン派遣 川崎 理亜 (盛岡第一高校)

私は2016年9月2日から交換留学生としてスウェーデンで生活をしています。久しぶりに日本語で文章を書く機会を頂き、母国語で自由に思いを綴れることにワクワクしている一方で多少の緊張感も覚えます。ここでは、文化と国民性、言語、新しく得られた視点についてお話させていただきます。

まず、文化と国民性です。やはりこれについてはお話できません。たった4ヶ月間の滞在ではスウェーデンの文化や人々について知らないことが多すぎますし、私一人の視点から得た不確かな情報をお伝えするのは恐れ多いからです。ただ一つだけ言えるとしたら、非常に多様です。現地でしか感じられないかつ、言葉には表せない感動も多々あります。なので、これに関しては、スウェーデンに滞在した際に皆さまそれぞれの感性で感じて頂きたいと思います。

次に、言語についてです。渡航前は学校の勉強に

私の中の大きな変化

63期アメリカ派遣 菅田和可子 (盛岡第三高校)

留学期間も残り二ヶ月となり、学校のイベントや所属しているマーチングバンドの活動も終わりを迎え、そろそろここを離れる時が近づいているのだと感じています。

起点に立って、なぜ私が高校生うちに留学しようと思ったのか振り返ると、異なる環境に一人身を置き、経験を積むことで小さいことに動じない自然体な人になりたいと考えたからです。異国での生活で慣れないことも多く、正直最初の数ヶ月は友達を作るのに苦労しました。話しかけてくれる子や留学生の私に興味をもって質問してくれる子もたくさんいましたが、友達と呼べる人は多くありませんでした。ある日、いつも話しかけてくれる子が「Are you afraid of American?」(アメリカ人を怖がっているの)と聞いてきました。そこで初めて、自分の自信の無さからくる振る舞いがアメリカ人にそう思わせていることを知りました。それまでは、「伝えなきゃいけない」、「話しかけなきゃいけない」と意識すぎて自分をうまく出せていなかったのです。自分になりたいと思っていた自然体の人には「○○しなくてははいけない」と意識するよりも、「○○たい」と思うことで結果的に積極的になっていることに気づきました。それからは人の目ばかりを気にしてしていた自分とも別れをつけることができ、友達もたくさん増えました。今では、その質問してきた女の子が一番の親友です。

そして、私はもう一つ大切なことをアメリカで学びました。ある日、美術のクラスにいる男の子が「日

手一杯で、スウェーデン語は文法程度しか勉強していません。なので滞在4ヶ月目にしては語彙が足りず、授業での話し合いなど1対1以上の会話には参加できません。スウェーデンでは英語で誰とでもコミュニケーションを取ることができます。私はこの間までそれに甘えていました。しかし本当にスウェーデンの社会に入っていくためにはスウェーデン語が必要であることに今さら気が付き、自由にスウェーデン語が話せないことへの悔しさがこみ上げました。これからでも頑張ります。

最後に今までの留学期間で新しく得られた視点についてお話します。スウェーデンには良い暮らしを求めてやって来た移民や、国外へ逃れることを余儀なくされた難民がたくさんいます。そのなかで、生きるため、またはいい暮らしを求めてスウェーデンにやって来た彼らと、留学生としてやって来た私の違いはなんだろうと考えるようになりました。私たちは外国からやって来ました。無償で大学まで行けるため私たちは同じ質の教育を受けられます。彼らは私のクラスメイトであり大切な友人なので、もちろん違う必要はありません。でも留学生にしかできないことを何か、残り半分の留学期間で一つでも見つけたいような気がします。

本ではパールハーバー(真珠湾攻撃)について何か教えられた?と私に聞いてきました。またホストファミリー達が「今日はパールハーバーの日だね。」と話しているのを聞いたことがあります。アメリカに来るまで真珠湾攻撃についてあまり深く考えたことがありませんでした。小中高と習ってきて知ってはいましたが、正直「こんなことが戦争の中であつたんだ」という程度で、日本人が原爆の日を大切にすることを初めて知りました。同じ歴史の出来事でも国が違えば捉え方が違うということを実感したことは大きな収穫でした。一つの視点からだけではなく多数の視点から物事を捉える力がついたと思います。

今はたくさんの友達にも恵まれ、何でも自分の気持ちと行動次第だということを知りました。視野も広がり自分の成長を実感しています。残りの留学生活も全力で楽しみます!



カリフォルニア旅行で仲良くなったAFS留学生達と和可子さん

ただ今留学中

64期スイス派遣 佐藤 辰哉 (一関第一高)

早いもので、私がスイスに来てからもう約3ヶ月が経ってしまいました。この3ヶ月は毎日新鮮なことばかりで、時間の経過がとても早く、日本にいたのが昨日のこのように感じられます。

スイスに着いた初日は、自分の拙い英語がちゃんと伝わるのか、これから起こり得る様々な問題に自分の力だけで向かっていけるのかと不安に押しつぶされそうでした。そのせいで、初日の夜は全く眠れなかったことをよく覚えています。「1年間無償で自分を預かってくれる人たちだから、絶対失礼のないようにしないと!」と重く考えすぎて、緊張で固まってしまっていた私でしたが、ホストファミリーはとても温かく接してくれました。

スイスの公用語は、ドイツ語、フランス語、イタリア語、ロマンシュ語の4つです。私の住んでいるチューリッヒはドイツ語圏なので、私はドイツ語を勉強しているのですが、周りの人が使うドイツ語は私が勉強しているのとは全く違います。これはスイスドイツ語と言って、ドイツ語がかなり訛ったものです。ドイツ人が聞いても理解できないほどなので、私は一つの言語として認めても良いのではと日々思っています。何しろ、いくらドイツ語を勉強しても発音がかなり異なっているので、なかなか周りの会話が理解できません。これはかなりストレスになります。もちろん私と会話する時はみんな高地ドイツ語で話してくれるのですが、それ以外の会話が聞き取れません。日本の、方言がキツイ地域にいる留学生も同じ気持ちだろうなと思いました。しかし逆に言うと、スイスドイツ語が使えるということは、ドイツでもオーストリアでもない、スイスに自分が留学した大きな証になるので、いつかスイスドイツ語も話せるようになってやろうと前向きに考えています。

一方私のホストファミリーはドイツ語よりもフランス語を使うことが多いです。もちろんフランス語なんて習ったことがないので、ホストファミリーが何を考えているのか分からないことがしばしばあります。この、情報がほとんど入って来ない状況は本当に辛いし、自分から聞きに行くしかありません。



スイスにて 佐藤辰哉君

ん。言語習得の為だけならドイツに行った方が絶対に早いのですが、ドイツ語だけでなく、フランス語や他の言語にも触れられる点はスイスの大きな魅力の一つだと思います。

スイスには留学生がたくさんいるので、学校で珍しがられるということはありませんでしたが、それでも何人かが話しかけてくれて、すぐに仲良くなれました。最初は会話が噛み合わなかったり、自分から話しかけられなかったりもしましたが、「留学生側から積極的にいかないと、相手はもっとやりづらさうな」と思ったので、思い切って恥ずかしさや他のいらぬ感情を全部捨てました。留学に来る前は人見知りだった自分が、今は初対面の人とも会話を楽しめるので、その点は成長できたなあと思っています。

3ヶ月というと、もう充分生活に慣れても良い時期ですが、私は今でもたくさんの失敗をします。その度にホストファミリーや友達に助けられてばかりです。いつも人に助けられて、とてもありがたいと思う反面申し訳ないなあと思う毎日です。これが当たり前前と違ってしまわないよう、そして今度は自分が相手のために行動しなければと思います。

私はこの留学生活で、日本で勉強しただけでは得られなかったものをたくさん学んでいます。留学を決めたことに全く後悔はありませんし、残り8ヶ月しかないと思ってしまうほどです。こんな体験ができるのもたくさんの人に支えられているからこそですし、感謝してもしきれません。残された時間を無駄にせず、大切に過ごしていきたいと思っています。

AFS 留学生ホストファミリー募集

～いちばん身近で、心に残る国際交流～

各国から来日したAFS留学生が、ボランティアの一般家庭に滞在しながら地域の高等学校に通学し、文化・社会への理解を深める、高校生の交換留学プログラムです。

◆受入対象国◆ アジア・北米・中南米・西欧・東欧・オセアニアの国々

◆ホストファミリーの条件◆ 単身でないご家庭で、ボランティアで留学生を家族の一員として受け入れ、食費を含む生活費を負担してくださるご家庭(通学費・医療費・AFS行事参加費はAFSが、小遣いは本人が負担します)。

◆受入期間◆ プログラムにより1ヵ月、5ヵ月、10ヵ月の受入となります。

◆お申し込み方法◆ AFSホームページから「ホストファミリー申込書」を入手し、必要事項をご記入の上、郵送またはFAXで岩手支部事務局にお送り下さい。

ベルギー仏語圏派遣 阪本祐理子 (盛岡白百合学園高)

私はベルギーでの留学生活に胸を膨らませながら、出発に向け留学生生活を有意義なものにすべく準備を進めています。日本文化について理解を深めるとともにフランス語の学習にも取り組んでいます。留学までには、ベルギーについても学びたいと思います。

ベルギーでは、揺れ動くヨーロッパの社会情勢を肌で感じたいです。また、自ら日本文化（主に茶道）についても発信していきたいです。それらを通して考え方の幅を広げ、物事を広い視野で捉えられるようになりたいです。そして互いの違いを認め合う「相互理解」を実践したいと考えています。

フィンランド派遣 小川 志織 (盛岡白百合学園高)

私がフィンランドに興味を持ち始めたのは、母から素晴らしい国であることを教えてもらってからです。それまでは、良い国であることしか知らず、何が良いのかは知りませんでした。しかし、調べていくうちに、教育の水準が高い、デザインが有名、自然に恵まれている、などと、たくさん良いところが分かってきました。実際に住んでみなければわからない良さをたくさん吸収し、日本人の代表であることを忘れずに、充実した留学生活を送れるように頑張ります。

アメリカ派遣 諏訪 貴代 (盛岡白百合学園高校)

私は今夏、アメリカへ約10ヶ月間留学しに行つて参ります。まだまだ先だと思っていましたが、時間が過ぎるのは早く、もうあと3ヶ月というところまで迫って参りました。私はこの留学で、国際社会で

も通用する英語力を身につけることはもちろん、それと同時に異国の文化や習慣、宗教などに触れ、少しでも自分の思想における視野を広げ柔軟な思考力を身につけていこうと思います。留学する10ヶ月間、有限である時間の中で、何を学んでいくべきかしっかりと自分で考えていきたいです。

イタリア派遣 松田 凜花 (盛岡第一高)

私は今、今年の秋からの一年間の留学生生活をとても楽しみに生活しています。しかし、不安な気持ちもそれ以上に大きいです。

私は自分で留学を決断しました。もともと海外に興味があり、将来も海外で活躍したいと漠然と考えていました。そんな時、AFSについて知り、応募に踏み切りました。日本の教室では学ぶことができないことを沢山吸収したい。自分が全く知らない世界を経験したい。いろいろ悩むこともありましたが、親や、周りの人からの後押しのおかげで自分を奮い立たせることができました。

私の派遣先のイタリアは、日本とは全く違う文化や歴史を持つ国です。その中でも、公用語がイタリア語で英語が通じないことが私がこの国を選んだポイントでもあります。言葉が通じない世界でどこまで自分を表現できるか挑戦してみたいと思ったからです。その中で日本について現地の人たちに知ってもらいたいと思います。また、沢山の人の人と関わり、積極的に友達を作りたいです。

そのためにも、留学まで残された数ヶ月間の1日1日を大切に、語学の勉強はもちろん、日本での生活を大切にしたいです。

● 1年間の支部受入報告 (2017. 6月現在) ●

【平成28年度受入】

■ 春年間受入 (3月～翌年2月)

サラ (Sarah Dezeque, 17) フランス出身

HS: 不来方高

HF: 和田孝仁様

■ MEXT (文科省事業) 短期受入 (10月8日～11月6日)

メイアン (May Ann Haw, 16) マレーシア出身

HS: 葛巻高

HF: 近藤 孝様

カリア (Kaleah Mae Woods, 17) オーストラリア出身

HS: 釜石高

HF: 大橋歌織様

【平成29年度受入】

■ 春年間受入 (3月～翌年2月)

ジェシカ (Jessica Junkans, 16) アメリカ出身

HS: 一関第一高

HF: 佐藤香代様

■ セメスター受入 (3月～8月)

ブリアナ (Briana Former-Walker, 15) カナダ出身

HS: 盛岡第一高

HF: 松田将司様

お世話になりました！

サラ

平成28年春年間受入生
不來方高校・フランス出身



こんにちは、
私の名前は紗羅(サラ)です！
フランスから来ました。今は不來方高等学校に通っています。
ここにたくさん友達ができ、とても楽しいです。
日本語と日本の文化を学べたことはたくさんありました。
勉強だ"ことを大切に帰国したいです。
色々な素晴らしいこともできたよかったです。
日本海に泳げ"本こととか岩手県にスキーボードしたこと
とか、学生生活をやってみれたこととか。
今まで、皆さんのお世話になりました！
心からありがとうございました。

~紗羅

サラと過ごした10ヶ月

サラは今どきの女子高生という感じで、一緒に生活をしていても違和感がなく日本人らしさのあるフランス人でした。ホームステイの初めころは緊張が感じられ、日本語を理解できないもどかしさも感じられましたが、3ヶ月が過ぎ夏の頃には上手にコミュニケーションが取れるようになり、友達も増え楽しく生活をしているようでした。家族で外食に行くとテーブルマナーに厳しく、家では頬杖をついて食事をしているくせに、時と場所のわきまえ方はさすがフランス人とも思いました。また家ではクッキー

ホストファミリー体験記

を焼いてくれたり、娘とアニメを見たり音楽を聴いたりとても楽しそうに生活をしていました。初めての長期間でのホームステイでとても心配で不安だったと思います。いま10ヶ月を過ぎサラはどう感じているのでしょうか。最良のホストファミリーであったとは思っていませんが、彼女のこれからの人生において良い思い出の一コマとなってくればとても嬉しく思います。また私たち家族もサラに出会えたことに感謝して、サラとの楽しい思い出を懐かしんでいます。

和田孝仁・陽子

ブリアナ

平成29年春 semester 受入生
盛岡第一高校・カナダ出身

い	さ	生	も	達	化	た	道	日	入	ス	オ	こ
で	み	は	ち	は	と	か	に	本	り	ボ	ー	ん
ま	し	ほ	が	多	日	ら	友	語	ま	ト	カ	に
く	ん	う	い	日	本	日	連	の	し	ウ	メ	ち
ど	な	ち	け	で	語	本	が	本	た	ガ	ダ	は
う	り	に	ど	す	を	に	た	が	か	カ	の	お
ぞ	ま	や	ど	一	学	行	く	読	お	ワ	アル	お
よ	す	さ	カ	ナ	び	た	た	た	お	キ	ベ	フ
し	く	い	も	ダ	い	い	と	お	お	カ	カ	シ
お	の	す	き	の	お	も	話	お	お	カ	カ	シ
な	全	カ	ナ	と	そ	り	と	お	お	カ	カ	シ
が	い	の	カ	日	が	ら	は	お	お	カ	カ	シ
し	こ	と	に	日	の	音	が	お	お	カ	カ	シ
ま	お	は	か	の	音	校	は	お	お	カ	カ	シ
お	も	し	の	体	の	と	の	お	お	カ	カ	シ
る	時	結	と	方	文	の	海	お	お	カ	カ	シ

こんにちは！

こんにちは！

ジェシカ

平成29年春年間受入生
一関第一高校・アメリカ出身

ア	リ	日	い	ま	ま	年	さ	こ
の	ト	本	ま	ま	ま	間	。ア	ん
N	日	の	ま	ま	ま	。日	メ	に
3	本	人	ま	ま	ま	本	リ	ち
レ	語	達	ま	ま	ま	に	カ	は
ベル	を	は	ま	ま	ま	滞	の	、
に	覚	ま	い	ま	ま	在	テ	私
チ	え	め	め	ま	ま	し	キ	は
ヤ	たい	で	で	ま	ま	ま	サ	ジ
レン	です	、	、	ま	ま	。今	ス	ン
ジ	そ	親	部	ま	ま	陸	カ	カ
した	し	切	活	ま	ま	上	ン	ス
い	て	だ	を	ま	ま	部	ス	ジ
です	、	と	し	ま	ま	入	エ	ン
。	、	思	て	ま	ま	っ	シ	カ
。	、	い	、	ま	ま	た	ク	で
P	も	ま	。	ま	ま	い	。	

サマーキャンプで、留学生と交流しませんか？

このキャンプは、AFSの留学プログラムで来日している各国の留学生との交流を目的として行われるものです。

異なる文化、習慣、言葉を持つ留学生と出会い、触れ合い、様々な体験をすることは、新しい自分を発見するきっかけになることでしょう。あなたにとって、忘れられない夏を過ごしてみませんか。

★2017年度 みちのく国際サマーキャンプ募集要項★

- 日程：2017年8月2日(水)～4日(金) 2泊3日
- 会場：「国立岩手山青少年交流の家」
〒020-0601 岩手県滝沢市後292
- 募集対象：主として東北各県在住の中学・高校生
- 募集人数：25名
- 参加費：12,000円(キャンプTシャツ申込者15,000円)
- 集合：8月2日(水) 12:10
JR盛岡駅西口2Fバスロータリー待合所
- 解散：8月4日(金) 13:00
JR盛岡駅西口1Fマリオス前
- 応募方法：AFS岩手支部のホームページより参加規程を熟読の上、応募フォームから申し込んでください。
- 募集締め切り：6月20日(火)

※7月15日(土)以降の取り消しにはキャンセル料が必要です。
※募集は定員になり次第締め切らせていただきます。



2018年派遣(第65期) 中学生・高校生募集

高校時代の留学は、異文化の中に置かれた自分を見つめて、「新しい自分を発見する旅」です。皆さんも世界と自分を知るために応募してみませんか？

一般選考A・B・C日程

A日程 試験日：6月11日(日)
選考会場：盛岡(盛岡駅西口アイーナ)
(一般選考Aの応募は締切ました)

B日程 募集期間：4月17日(月)～6月29日(木)
試験日：7月16日(日)
選考会場：仙台

C日程 募集期間：7月19日(水)～9月14日(木)
試験日：10月1日(日)
選考会場：仙台
対象国：募集継続国(7月19日以降、AFSホームページで確認してください)

試験内容：英語(ELTiS・80分)、一般教養(30分)の筆記試験と面接(15分程度)

選考手数料：21,600円

詳細はAFSホームページで確認のこと

平成28年度 岩手支部収支報告

収入の部	寄付金	90,000円
	会費	87,000円
	その他の収入	301,090円
	協会本部より	245,897円
	繰越金	1,090,381円
収入合計		1,814,368円
支出の部	支部管理費	565,471円
	協会本部分	137,897円
	次期繰越金	1,111,000円
	支出合計	1,814,368円

会費等の納入ありがとうございました。

昨年度も皆様からAFS岩手支部にご支援を頂き、誠にありがとうございました。会費、ご寄付いただいた方々のご芳名を掲載させていただき、ご協力に心から感謝申し上げます。(敬称略・順不同)

≪会費≫ 藤森 雅子 藤森 正文 平井 博夫 山口 碧 小笠原和志 川村 俊幸 晴山 健二
 阪本 和子 佐藤 和好 小笠原菜凜 小川 春美 松田 彩 松田 文平 富田 正
 村中あけみ 中川 玲子 瀧本 俊一 中村 道典 中野 浩子 川崎 裕子 工藤 弘幸
 諏訪 君雄 米沢 俊一 佐藤 香代 立川目留美子 小田島 豊 高橋 透 井上 義博
 盛島 寛

≪寄付金≫ 藤井 博 横山 ユウ 新里 優子 佐藤 和好 小田島 豊 立川目留美子 村上 晶子
 J全農いわて(ホストファミリー支援米)

会費のお願い 今年度も支部会費のご協力をお願いします。

支部会費：年 3,000円(支部会員)
支部会員(支部員、派遣生保護者、リタナー及び保護者、支部活動に協賛する個人又は団体)

等振込先

ゆうちょ銀行 10190-17982571 (普通)
口座名義：(公財)AFS日本協会岩手支部

ご寄付のお願い AFSは国際理解教育を推進しています。10代の高校生をはじめとしたより多くの人々に、異なる文化と接する機会を提供できるよう、AFSの活動にご支援を賜りたくよろしくお願ひします。

【ご寄付の方法】(公財)AFS日本協会(支部を含む)への寄付はいくらからでもしていただけます。
※詳しくはAFSのホームページをご覧ください。